



社会教育 アドバイザー通信

第5号 平成26年11月28日
発行 秋田県教育委員会
編集 秋田県生涯学習センター

平成26年度 生涯学習・社会教育関係職員実践講座Ⅶ



学校に授業を見に行こう！
～地域と共に歩む学校の在り方に学ぶ～

(平成26年10月7日：八郎潟町立八郎潟小学校)

10月7日、「生涯学習・社会教育関係職員実践講座Ⅶ」が、八郎潟町立八郎潟小学校を会場に開催されました。今回のテーマは、「学校に授業を見に行こう！～地域と共に歩む学校の在り方に学ぶ～」でした。

講師の六郷博志八郎潟小学校長は、地域と小学校が、これまで長く、密接にかかわりを持ってきた経緯を紹介してくださいました。郷土芸能である「願人踊り」を、地域の方々から毎年継続して教えていただいたり、クラブ活動などでも、講師として子どもたちに直接ご指導いただいたりしていることなどを挙げられました。

「願人踊り」の練習は3年生から始め、学年が進むにつれ、全員が演舞できる八郎潟小学校の子どもたちの様子を映像で見せてもらいましたが、その生き生きとした表情や、ふるさとへの誇りと自信を持った様子に、保存・継承が懸念される各地の郷土芸能についても、地域・学校が手を携えることで、伝承の手がかりを得ることができるという思いを強くしました。

また、校長の新たな視点により、「総合的な学習の時間」で取り組む『町と学校の未来をさぐる「八郎潟みらい学」』と称する地域との協働は、保護者の理解も得て、学校・地域双方の活性化に大きな効果をもたらすに違いありません。「地域と学校との協働」のよきモデルといえます。

参加した関係職員たちは、地域の現状とかかわりを持たせながら、意見や感想を発言しあい、協働の在り方について、学びを深めた有意義な講座となりました。



講師の六郷博志八郎潟小学校長



懇談会の様子



クラブ活動の様子

～地域の方々の指導のもとに～
＝大道芸（南京玉すだれ 左）
＝クッキング（郷土食 中央）
＝将棋（右）



しおり作り体験コーナー
つくってみよう！
世界にひとつだけの「しおり」



10月26日、当生涯学習センターの体験コーナーには、多くの方々が立ち寄り、世界にひとつだけの「しおり」を作りました。あきたエコマイスター県央協議会の会員の皆さんが、街路樹や鳥海山麓まで足を延ばして集めた木の葉を素材に、レイアウトを考え、ラミネート加工して完成です。

昨今は電子書籍の愛用者が増えていますが、従来の読書スタイルに戻り、好みの「しおり」をはさみながら、時間をかけ、読み返してみると、もう一つの楽しみ方があると思います。

また、書籍それぞれの装丁も読書欲をそそります。皆さんは、読書にどんな楽しみ方をしていますか。

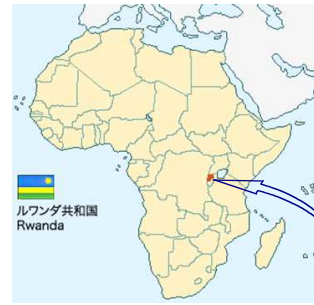
第29回国民文化祭・あきた2014

あきた国際フェスティバル2014@アトリオン

「秋田と世界をつなぐJICA 2 days」

～教師海外研修で見た途上国 ルワンダ～

(平成26年10月18日：秋田市)



ルワンダは
ここです

10月18日から19日の2日間、アトリオンを会場に、「あきた国際フェスティバル2014」が開催されました。「秋田で世界を感じる2日間」と銘打ち、ステージパフォーマンス、世界の文化紹介、各国の料理が味わえるフードコーナーなどが設けられ、家族連れも多く、秋田に居ながらにして国際感覚を養う得難い機会となりました。特に、高校生や子どもたちにとり、このような体験は、他国の見方や考え方を知り、グローバルな視野を身に付けるための素地になるのではと思います。

また、独立行政法人国際協力機構（JICA）東北支部が主催する「教師海外研修で見た途上国」の報告会も行われました。18日午後は、県立能代松陽高等学校の田口峰子教諭が、15日間の訪問で交流したルワンダの現状について報告しました。日ごろ、国際教育に関心の高い田口教諭は、「開発途上国を自分の目で見て、生徒たちに新たな視点を示すことができれば」と積極的に研修に参加したそうです。

田口教諭は勤務校でも公開授業を行いました。生徒たちに世界の国々と日本との様々な事柄の違いについて提示し、「あっていい違い」と「あってはならない違い」を考えさせたところ、「あっていい違い」には文化などを挙げ、「あってはならない違い」に格差や貧困などが挙げたと伺いました。

教師海外研修報告を通して、生徒や県民の方々が国際理解の重要性を認識する一端となりました。同時に、日本人同士、他国の人との交流であれ、また子育てにおいても、お互いの違いを認めつつ、相手を尊重する姿勢で臨むことが大切だといえます。



報告する
田口峰子教諭



ルワンダで
仕立てた民族
衣装の披露



将来の職業は？

「医師、エンジニア、軍人、弁護士」



田口教諭が
強く印象に
残ったとい
う「自然、
とりわけ、
丘また丘」

美の国アケイブカレッジ

秋田の文学・婦人活動・教育

【第7講・国民文化祭連携事業】

秋田民話の発掘者 今村 泰子

(大正5年～平成16年)



昭和30年代から、夫・義孝氏の郷土史研究のパートナーとして、県内に伝わる昔話の収集と研究に励み、『秋田むかし』『民話集』『秋田のわらべ歌』などを発行。民俗学研究の分野で精力的に活躍した。県文化功労賞受賞者

10月26日、「秋田の文学・婦人活動・教育」講座が、北条常久シニアコーディネーターを講師に、「秋田民話の発掘者 今村泰子」と題して、開催されました。

今村泰子（いまむらひろこ）の功績は、秋田県の昔話を収集し、全国に発信し、それは民俗学の貴重な資料であるとともに、創作民話の火付け役となり、日本の昔話ブームの先陣を切るものでした。

今回の講座を通して、シニア世代の在り方を問われているように感じました。

「なぜ昔話の採録を思い立ったのですか」という問いに、「子育てが終わったので、母の立場で私にできることはないかと考えたの」と答えています。学んだことや得意なことを生かして行動する「行動人」の先輩ともいえます。

当時は、県内各地の集落を訪ね歩くにしても、電車やバスを乗り継いでの採録であり、重いオープンリール式のテープレコーダーを持ち運ぶこともままならなかったといいます。熊本県出身の今村にとり、老人の語る秋田弁の昔話を筆録しての作業はいかばかりだったろうと思います。この強靱な意志とともに、採録した昔話には、母のぬくもりがあるのかもしれないという、北条シニアコーディネーターの言葉が説得力を持ちました。

また当日は、秋田県読書フェスタの期間中でもあり、現代人が忘れかけている人間の温かさや、人類と自然の共生の世界が描き出されている「昔話」の魅力へと誘う一日となりました。